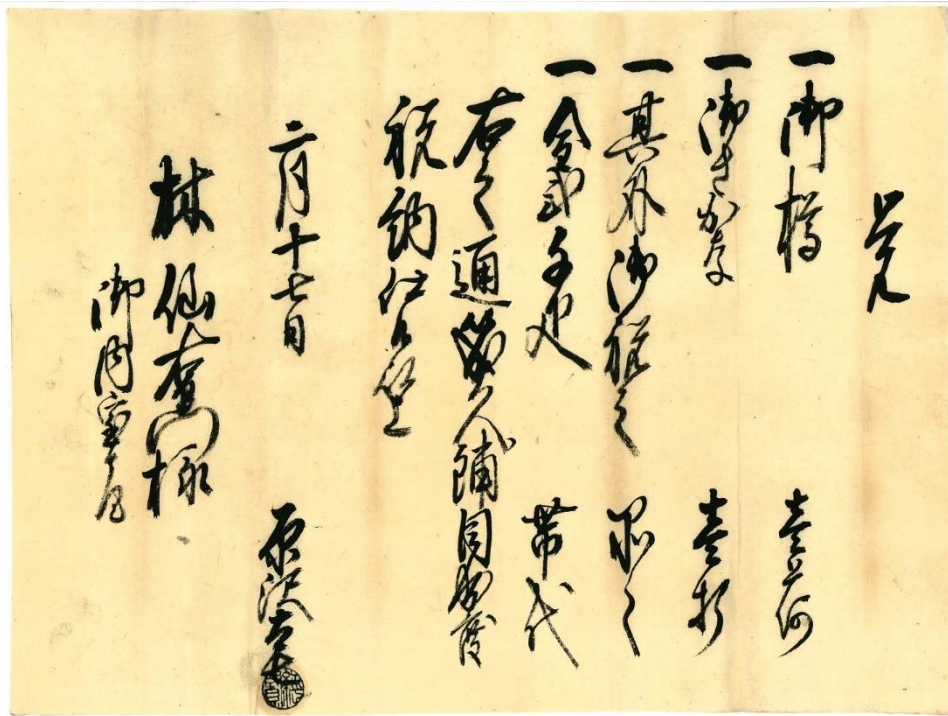


⑭ 覚（結納目録）

天保4年（1833）2月17日

この史料は、江戸時代の天保年間に作成された結納目録です。樽（樽酒）、さかな（肴）、祝いの品々、衣装代としての金銭などが結納品として納められていたことがわかります。民俗学者の柳田国男（1875～1962）は、結納は「ユイモノ」すなわち家と家とが新しく姻戚関係を結ぶために、共同で飲食する酒と肴を意味する語で、^{むこ}婿入り婚が中心であった古い時代に、婿がこれを携えて婿入りする習慣に儀礼の淵源を求めています。

林孝雄家文書 P8503 No.213-1
(利根郡みなかみ町羽場)



【⑭】 覚（結納目録）

〔釈文〕

覚

- 一 御樽 壺荷
- 一 御さかな 肴折
- 一 其外御祝之 品々
- 一 金貳千疋 帯代

右之通幾（いづくさし）久鋪目出度
祝納仕候、以上

二月十七日 原沢太七印

林 仙右衛門様
御内室様

（包紙）

天保四年己二月十七日結納受取
下新田 太七殿